

しゃらくかい
写楽同会

平成30年4月30日 028
投稿/投票宛先; kinuko_thompson@hotmail.com
© 2018 Sharakukai

久芽さん出題「乗り物」の卯月4月号をお送りします。

写真俳句

また一機霞みの中へ戻されて



1 また一機霞みの中へ戻されて

真っ青な空の中から日常の世界へ戻される・・・。

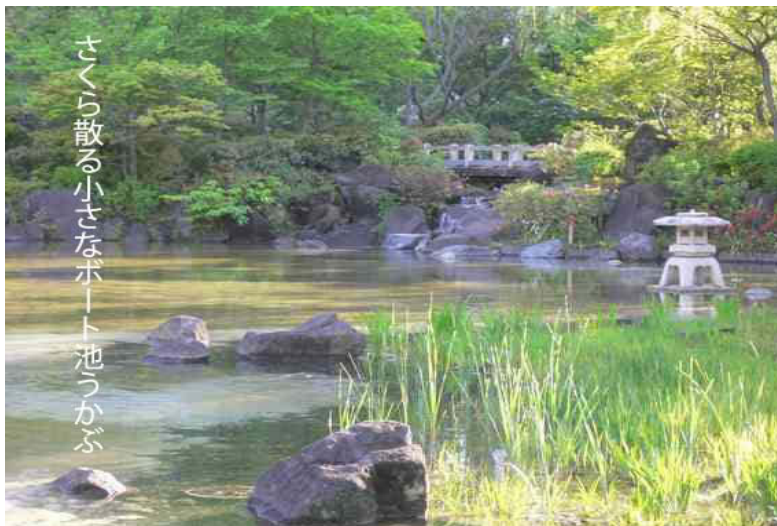
2 春空にゆらりと揺れてリフト行く

お天気の良い日にリフトに乗れるなんて気持ち良い～。

春空にゆらりと揺れてリフト行く

3 さくら散る小さなボート池うかぶ

さくら散る小さなボート池うかぶ





4 花吹雪川奈のカート夢心地

ゴルフをおやりの方しか分からないかも知れませんが、日本では「川奈ホテルゴルフ場」でプレーする事に誰もが憧れるものです。しかも桜が咲き誇るなかで、カートに乗ってプレーするなど、歩きが当たり前で、考えられない事でした。3月28日にやってきました。



5 野焼き終え車に迫る羊群原

野焼きの後は白い石が一面に広がります。



6 天窓に幼き春の梢かな

二階建てバスは珍しくないのですが、天窓はこの車両の特徴。音声案内、無料WiFi、USBポートに加え、乗客が読み終わった本を交換出来る本棚もあり、車窓の景色もよく、座り心地もいい路線バスです。



7 老一人降ろして発車 春の雲

実は写真は秋に撮ったものですが、春ののんびりした雰囲気を出せるかと思い、季語として「春の雲」を使いました。



8 花の路おとぎの国のトラムかな

東京で唯一の路面電車荒川線は愛称トーキョー・トラムと言います。

俳句



能登号 (久芽撮影)

1 花ガイド北の大路の人力車

角館の人力車を見て一句。

2 童背にポニーの歩みうらうらと

3 ブランコや地を蹴り上げて空も蹴り

子供の頃は空に翔べとばかりにブランコを漕いだものでしたね。

4 水ぬるむ川面に古舟土手つくし

5 枕木の脇の蒲公英汽車走る

6 青葉見る余裕吹き飛ばレーシングカー

初めて乗せてもらいこわかったです。

7 たんぽぽにポツリ雨落つバスはまだ

短歌

準坊 肩痛で左向きしか寝られずに幸い右に妻眠りをり
顔が見えなくて良かったと言う事では絶対ありませ〜ん！

川柳

準坊 階段を一段飛ばす勇氣なし
今では急いでいても慎重に一段一段。手摺りが頼り。

池福楼（乗り物川柳）
やってない両手吊皮握ってる

痴漢冤罪恐怖症

居眠りし寄りかかる肩はずされる

へるもんじゃなし〜と思うけど

俳句

昼寝覚 この2週間ばかり病院のベッドの上におりましたが、そのとき作った駄句です。
ご意見ご批判などいただけましたら幸いです。

咳しゃくり激痛走りて春遠し

トイレにも付き添いがいて春まだき

点滴の彼方の山は春の色

30年3月「旅」（出題者：梵木）の作品と投票結果

<< >>は作者コメント、* は読者コメントです。

* 3月号、皆さんのきれいな写真が多く楽しませていただきました。iSAMUさんの「ウグイ」の写真も感心しました。
(MKさん)

写真俳句の部 総投票数：28**一席**

ひととき

北帰行 までの一時 春隣 昼寝覚（6票）

<<以前にすんでいた弘前付近の川には毎年多くの白鳥が飛来します。春になるとシベリアに帰りますが、それまでのひととき羽を休ませているようです。>>

- * 北へ帰る時を待つ白鳥がシルエットなのがいいですね。
- * 白鳥たちにとっては遥かな北の国への生死をかけた旅になる準備のとき。
- * 春隣は冬の季語なのでですね。勉強になります。

* この写真からも白鳥が北へ帰るまでの羽を休めているように見えます。

* 夕暮れ時なのででしょうか、ほんのりピンクみtainな淡い光を映す湖面と白鳥がシルエットみたいになって素敵な写真ですね。旅立ち前のおだやかな一時、無事に目的地まで旅してほしいです。

道しるべ辿りつ北へ春の旅 北切雀 (5票)



<<旅をしているのは人か、春か。読み手の想像にお任せ。>>

- * この道しるべはヨーロッパなどでよく見かける巡礼のためなのでしょうか？
- * 私は 春だと思います。花咲か爺さんを連れた春。
- * 南から北へ旅しているのは春と読みました。
- * 道標の画像が印象的。今日と違う明日を見つけに行く旅か。
- * 道標をたどって行く。あと一週間で次の道標まで？ やっぱり春かな。

旅終へて今日と別れし春日かな 準坊 (4票)



<<一日の旅を終えて海に沈む日はとても綺麗でした。>>

- * 旅はいつも出会いと別れがある。今日との別れが明日の希望に。
- * 旅の終わりにこんな風景を見たら、本当に幸せな気分になりそう。これが春の夕日かどうかは写真から判断は難しいけど、とにかく美しい！

砂漠旅追えば逃げ行く蜃気楼 iSAMAU (4票)



<<エジプト・アスワンからアブシンベルへの道中の蜃気楼です。砂漠に水や島が現れ、追って行くと消えます。>>

- * 蜃気楼をとらえた見事な写真とリズムカルな俳句がいいですね。
- * まぼろしに見る理想郷は追う度に逃げていくものなり。
- * 砂漠や蜃気楼と俳句という組み合わせもかなり珍しい、こんな写真もなかなか撮れないですね。
- * 「蜃気楼」は春の季語なんです。逃げ水のイメージから夏の季語かと思ってました。

風光り卒旅友と初外遊 千泉 (4票)



<<友人のお嬢さんの話を聞き詠みました。>>

- * 卒業旅行のうきうき感がよく出ています。
- * 爽やかな飛行機からの景色と風光りという表現から、初めての海外へのワクワク感が感じられます。
- * 春の陽光が人生の門出を祝福するよう。

春菜蒔き明日は四国路早仕舞い 久芽 (4票)



<<明日は旅行早く種蒔き済ませて旅支度しなくては……。>>

- * いいですねえ 大地に足をつけて 羨ましい。四国へはお遍路でしょうか。
- * 黒々と恵あふれる土にしっかり両足を張って・・・理想の暮らし。
- * ワクワクするリズム感が好きです。
- * 旅への期待感がふくらむ、心うきうきする句。日常と非日常の対比が上手い。



残り雪昨日の旅も窓流る 池福楼

<<旅の帰路、新幹線の車窓にて。>>

- * 流れ去って行く風景に作者は何をみているのでしょうか。「過去も未来もなく、今、この時だけ」と、般若心経。



春の旅日々どこへでもめし雨具 梵木

- * すっかり旅を楽しむ準備ができている楽しさが伝わって来ます。こんなにさりげなく日常の風景みたいにザックがおかれているなんて、心の準備はいつでも万全なんですね、あっぱれです。
- * 握りめしと傘さえあればいつでも旅する自由人。想像力を広げる句。

写真いいね! 推薦者 2 名



旅終へて今日と別れし春日かな

準坊

- * 左上の雲がよいですね（昼寝覚）。
- * きれいですね（MKさん）。

俳句 総投票数：26



撮影：梵木

一席

今弥生宇宙に旅立つホーキング 梵木（7票）

- * 宇宙の創世など研究された博士への弔辞。
- * ひとりの天才が 難病におかされた自由にならない身体を脱ぎ捨てて宇宙に旅立ちましたね。
又生まれかわって 地球に帰還してください。
- * 「天国も死後の世界もない」と彼の言葉に同感。
- * 博士の旅の行く先は壮大な宇宙の夢とロマン。スケールの大きな句。
- * ホーキング博士が逝ってしまいましたね。
- * ニュースを聞き本当に宇宙に旅立ったように感じてました。

佳作

春の陽や早やわが心旅に駆る 千泉（5票）

<<やっと寒かった冬が終わりました。>>

- * 人間も暖かくなると じっとしてられませんよね。「春の陽や」の「や」を「に」に変えては いかが？
- * 旅に行くまでにいろいろと計画をたてるのも、楽しみの一つですよ。
- * 今年の冬の寒さを思い起こします。

満天の星冴え返る甲斐の国 準坊（4票）

<<星の観賞と温泉を訪ね甲斐に行ってきました。>>

- * いつだって頭上にあるはずなのになかなか見られないのが星空。旅をして満天の星に出会えたら最高に感動で、旅に出たカイ（甲斐）がありましたね。
- * 澄み切った星空と温泉、いいですね~。
- * 旅の目的が星を見に行くというのは贅沢ですね。

にびの空かぎ裂きにして雁帰る 北切雀（4票）

<<耳なれない音に見上げると雁の群れで、鉤になって鳴きながら飛んでいきました。>>

- * 私は残念ながら雁の群れを見たことがないのですが、見てみたいです。どうしてあんな風にきれいに隊列を組めるのが不思議でなりません。
- * 「かぎ裂き」が雁の旅の映像を想起させる、臨場感がある。
- * 鉤裂きになって飛んで行く雁の群れ想像できます。
- * 雁の声で空を見上げるといのは、特定の場所で特定の時期でないとできないことでしょうね。光景の表現がとてもいいと思いました。

峰近し（順不同）

車窓から溢れる朝日山笑う 久芽

<<ドライブ中に朝日が差して山が笑っているようです。>>

- * 山笑うの季語が効いている、素直に理解できる情景。
- * 朝日を浴びて山が笑っているという表現は、初めて聞きました。

古民家の軒端掠める初ツバメ 池福楼

- * 長旅を終えてやってくるツバメを見ると何故か心が温まりますね。
- * 地方にいと、よく見る風景ですね。

春空へ影なくなりて 旅始む 昼寝覚

- * 春の陽光の柔らかさ、風の優しさを感じ、旅への誘いが。

鈍色の空に白梅咲き始め待ち侘びし春ゆっくりゆっくりと 準坊

<<今年の冬は本当に寒い日が続きました。花の膨らみにはホッとします。>>

* どんなに寒い冬でも確実に春は巡ってきます。春を待ちわびる気持ちが表れていますね。

これもまた旅の姿か待ち時間老いも若きもスマホつまぐる 北切雀

<<かくいう我もそのひとり。>>

* この短歌上手い!と思った。正にどこ行ってもこの風景。「スマホつまぐる」つまぐるって初めて聞いたけど、なるほどー!いい表現。

* 少しの時間もスマホに奪われてしまう現代人。旅は待つ時間をも楽しむもの。現代批評の歌ですね。

川柳

準坊 七十四未だ躊躇の優先席

<<この歳になっても電車の優先席利用には躊躇します。>>

* 作者の謙虚さが良くわかる。この点ご婦人は躊躇なく座りますよね。

池福楼 いい湯だな銭湯富士で旅気分

過密過ぎ朝からいびきバスツアー

iSAMUさんから春の写真を頂きました。



iSAMU:

僕の HP の一部に「写真集」があります。2009年頃からのものが沢山あります。その時々心に残った花や風景などの写真です。できれば 21 インチ程度のディスプレイでご覧になるのが最適なんですが、縮小してもそれなりに楽しめます。写真の加工などもご自由になさってください。こちらがそのURLです。下にスクロールしますと写真があります。

<http://136isamu.at-ninja.jp/50syasin.html>

* iSAMUさんのHPみましたが素晴らしいですね。どれもが水準の高い画像で写俳にはぴったりでいい句が作れそう。すべてご本人の撮影ですか?時々楽しませていただきます(池福楼)。



先月の兼題「旅」の愚作に拙宅近くの道しるべを
使いましたが、「巡礼のためのものか」という
ご質問を頂きました。

宗教とは無関係だと思います。
以前住んでいた北東地方には、世界遺産になって
いる12世紀の大聖堂があり、国内外から参詣者を
集めていますが、道しるべのようなものは見かけ
ませんでした。

ここに貼りました写真もみな近所のもので
高さも形も墓石。おまけに指さしは「〇〇家」。
つい「冥途の旅の一里塚」というフレーズが
浮かんできます（北切雀）。



- * 作者さん、読者さん、いつもご協力ありがとうございます。多々ある不備、不手際のお見逃しも感謝です。
- * 平成30年5月の兼題は千泉さん出題「建物」です。6月は準坊さんから「傘」と出ています。
- * 平成30年4号の作品の写俳、俳句の中で「いいね」と思われた二作品の番号を投票して下さい。
- * 句とは別に、写真として特にいいと思われる写俳作品がありましたら、「写真いいね!」として投票下さい。
- * 投票しなかった作品へのコメントも遠慮なくお寄せ下さい。短歌、川柳も大歓迎です。
- * 皐月5月への投稿、卯月4月号作品への投票の締め切りはともに平成30年5月20日です。
- * 随想、珍事報告などなど書き込みの他、読者さんからの兼題提案も常時受け付けてます。

「写楽句会」(五十音順)

池福楼、iSAMU、北切雀、準坊、隅っ孤、沈丁花、千泉、久芽、昼寝覚、梵木、
写楽句会028(連絡先: kinuko_thompson@hotmail.com)

© 2018 Sharakukai

筆責: 北切雀

校正: 準坊、池福楼

